第二講　異文化理解論・文化人類学

新月の夜は磯（いそ）あさりにでかける。真夜中、珊瑚（さんご）のかたまりが点々とするソロモン諸島の環礁沿いの浜辺は、最大干潮を迎える。波の音は遠のき、星の明かりが一面にこぼれる静かな闇夜（やみよ）である。

灯油ランプを手に手に、女性や子どもたちがやってくる。人びとは海岸線に対して垂直になるように並ぶ。そしてお互いに五メートルほどの間隔を保ちながら、海水がすっかり引いた珊瑚の岩礁がむきだしになった磯を、横一列になってゆっくりと移動していく。歩き出す足元から、小魚がぴしゃりと跳ねる。長い環礁の浜辺はどこまでもまっすぐに続いている。岩のくぼみを明かりで照らしながら、海に取り残された小さな生き物たちを探す。

人びとがもっとも熱心に探しているのが、黒いだんだら模様のあるケショウサザエである。ケショウサザエは日本のサザエに比べてやや小ぶりだが、味はほとんど変わらない。サザエを貝殻ごと念入りに火であぶって、まだ熱いうちにエキスのしたたる肉にかぶりつくときの幸せは、いまさらここに書くまでもないだろう。

三時間あまり磯を歩いて採集を続けると、獲物がはいった袋はずっしりと重たくなる。そろそろ潮も満ち始めた。一所懸命探したはずなのに、わたしの収穫はほかの村人の半分くらいである。人びとは貝だの蟹（かに）だのをわたしの袋にほうりこんでくれる。なんだか申しわけない。

その時、一〇人ほどの参加者のなかで、ひとりだけ飛び抜けてたくさんのサザエを採っている少女がいた。その一二歳ぐらいの少女の袋には、サザエばかりがぎっしりとつまっていた。不思議である。聞けば彼女は経験豊かな大人たちをしりめに、いつも誰よりもサザエを多く採るのだという。

それを彼女の才能と言ってしまうのは簡単である。だが、いったいどんなたぐいの能力なのだろう。彼女はサザエの居そうな場所をよく知っているのだろうか？　それとも、ほかの人よりもちょっと熱心なのだろうか？　暗い所で効果を発揮する人並みはずれた視力？　[A] 集中力？　彼女のうちの何かが普通とは違うはずだ。そして、どんな理由であれ、その結果、彼女には「見える」のである。わたしには見えないたくさんのサザエが。磯あさりの技量は、結局この「見える」という能力に集約される。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

さて、ここでわたしが、何の説明もなく、次のように言いきってしまうのを許してほしい。「見えることが世界を構築する。」誤解を受けることを覚悟の上で、あえて「見える」という視覚に関する言葉を、「感じる」こと一般の象徴として用いた。だがもちろんこれは、単に獲物に対する視覚的な能力に止まる話ではない。認識世界は経済世界細部にまで宿っている。日常生活のさまざまな事象は、その「見え方」によって、全く別の意味（価値）を持ってくる。

われわれにとって大切なことは、何を見ているのかと言うより、むしろどう見えているのかにかかっている。サザエは、それを石だと見る人にとってはあくまでも石であるが、それをサザエであると見る人にとっては決して石ではない。同じように「はたしてわたしは彼らと同じように世界を見ているのだろうか」という問いかけは、異文化の中で生活している者にとって、常に、繰返し立ち現れるやっかいな悩みである。

文化人類学者が異文化を説明する記述に、たとえば「彼らはこう考えている」というものがある。この手法を用いれば、一見［B］理解者の顔をして居られるが、実は複数の相対的な価値の存在を暗に示唆することによって、彼らの世界の絶対性を(C)ないがしろにしている。美しいものは美しい、わかる人にはわかる、見える者には見える、こうした極めてあたりまえの言説ですら、相対主義の名のものに(D)覆い隠されてしまう危険性がある。

「彼らにはこう見える」と書くには［E］勇気が必要だ。(F)往々にして記録者のわたしにはそう見えていないことが多いからだ。にもかかわらず、確かに彼らには見えている。見えていなければありえない事実がある。(G)もどかしいのは、見えているという現象のまえに、それより先の分析が拒絶されてしまうことだ。もっとも美や超自然的な事象に比べれば、少なくともサザエは、検証の可能性を残してくれる。特定の誰かが、常にほかの人よりも多くサザエを見ることができるという事実は、採ってきたサザエを数えれば明白である。分析は困難であるが、検証は可能である。

新月のたびに村人たちと磯あさりに出るうちに、いつのまにかわたしの収穫もいくぶんかましになってきた。それまでは、単に［H］岩場に見えていた場所に、いくつもの一定したパターンがあるのを発見した。磯はけっして単調ではなく多様であり、その多様性のなかに、しっかりとした規則性があった。その規則性は、許されれば名前をつけておきたくなるような、再現性のあるくりかえしだった。そして、そのくりかえしの間に、ときどきサザエの模様がはいっているのだ。サザエをみつける瞬間は、サザエそのものより先に、サザエの模様、サザエの形、サザエの不自然さが、目の中に飛び込んでくるような気がする。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

いろいろなものが見えるようになってくると、磯あさりがぜん楽しくなった。できないことができるようになる喜びは、なにものにもかえがたい。それはまるでおさな子のように、そう、まさに世界を獲得していく作業である。しかし、ここでわたしがいくら「見えるようになったのだ」と書いても、それだけでは誰も納得してくれないだろう。次は「なぜ」「どのようにして」見えるようになったのか、それを語らなければならない。

パターン？　規則性？　ここはなんとしても、見えないサザエが見えるようになるための、新しい言葉をみつけなくてはならない。

遠くで単調な波の音が聞こえている。夜の空は澄みきっている。身がさざめくような［Ｉ］ほどの星の数だ。思考が行き詰まって現実の世界に引き戻される、と、突然、視界の端にサザエの影がちらっとよぎるのである。

（竹川大介『サザエを見る目』「月刊みんぱく」一九九六年五月号、一五〜一七頁　一部省略による）

問１　空欄［Ａ］・［Ｂ］・［Ｅ］・［Ｈ］・［Ｉ］に入れるのにもっとも適切な語を次の中から選びなさい。ただし、一つの語は一か所にしかはいらない。

①　おびただしい　②　それなりの　③　たぐいまれな　④　漠然とした　⑤　ものわかりのいい

問２　傍線部Ｃ・Ｆの意味としてもっとも適切な語を次の中から選びなさい。

Ｃ　①　異化する　②　軽視する　③　再評価する　④　重視する　⑤　認識する

Ｆ　①　しばしば　②　そろそろ　③　たまたま　④　なかなか　⑤　わざわざ

問３　傍線部Ｄについて、覆い隠されてしまうものは何か。本文中から九字の語句を抜き出しなさい。

問４　傍線部Ｇの「それより先の分析」が可能になるためには、何が必要なのか、本文中から五字の語句を抜き出しなさい。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問５　次の中で、本文の趣旨に合致するものには○を、合致しないものには×を記しなさい。

①　筆者にとって最大の関心事は、美や超自然的な事象である。

②　文化の型によって、見えるものと見えないものとの間に違いが生じる。

③　ケショウサザエを探す人の熱心さは、その収穫量ではかることができる。

④　自分の目に見えないものは、いくら経験を重ねても見えるようにはならない。

⑤　分析は困難でも検証可能なものは、事実としてその存在を認めることができる。

⑥　わかる人にはわかるといった言説は、複数の相対的な価値の存在を認めることによって成立する。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　知識モノ解説

文学史・人物解説

●竹川大介＝たけかわ　だいすけ　京都大学理学部卒、同大学院で人類学を専攻。理学博士。現在、北九州市立大教授

語句

文化人類学→文化という概念を中心に、人間について研究する学問
新月＝しんげつ→太陽と重なって月自体は見えないときで、夜なら闇夜。朔（さく）ともいう。英語でも「ニュー・ムーン」
念入り＝ねんいり→細かいところまで注意を払う　cf余念がない→一つの事に集中
相対的＝そうたいてき→絶対的でなく、いろいろそれぞれあるうちの一つ
示唆＝しさ→ほのめかす・それとなく示す
超自然的→物理的自然現象を越えた・オカルト
夥しい＝おびただしい→たくさん・星の数・真砂（まさご）の数ほど

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講

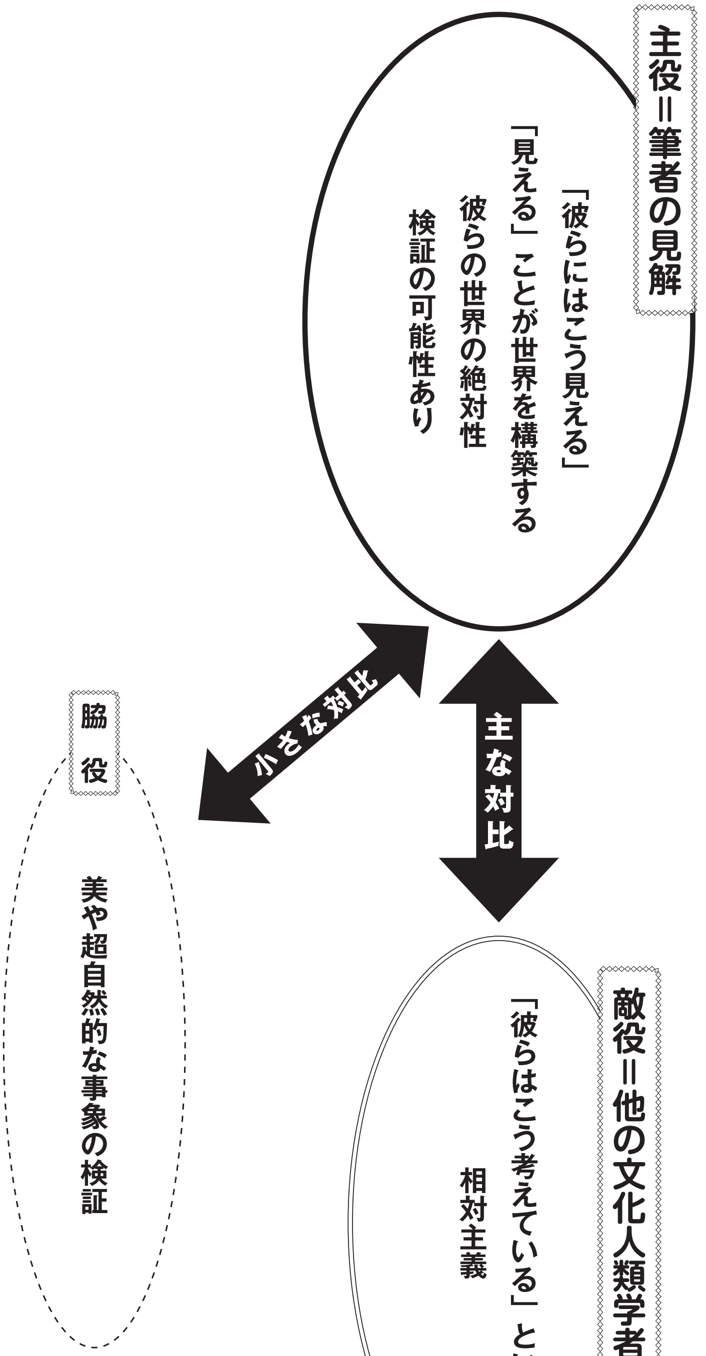
次の傍線部にあたる漢字を、次の選択肢から選びなさい。

（ア）互いに間カクをあける　①角　②覚　③隔　④画　⑤各
（イ）海岸で魚介類をサイ集する　①再　②宰　③祭　④催　⑤採
（ウ）魚介の収カク量を誇る　①穫　②覚　③確　④閣　⑤核
（エ）見えることが世界をコウ築する　①構　②効　③考　④高　⑤硬
（オ）誤解も覚ゴのうえで行う　①伍　②誤　③娯　④悟　⑤御
（カ）それとなく正解をシ唆する　①指　②志　③示　④詩　⑤視
（キ）検査結果をキ録にとどめる　①記　②着　③機　④紀　⑤基
（ク）仮説を実験で検ショウする　①証　②賞　③性　④省　⑤将
（ケ）岩場や岩礁のキ則性を知る　①期　②軌　③規　④揮　⑤気
（コ）分析をキョ絶してしまう　①虚　②拒　③炬　④去　⑤居

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　異文化理解論・文化人類学

《本文の対比構造》



© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《空欄補充・選択肢》

空欄[A]では、「彼女の才能」を列挙した一連の流れに注目します。空欄直前の「人並みはずれた視力？」と同様に「集中力？」を修飾します。したがって、③の「たぐいまれな」を選びます。「類い稀」ですから抜きん出た力を表現するのにふさわしいですね。空欄[B]は、直後の「理解者」とセットになりますから、⑤の「ものわかりのいい」と決まります。空欄[E]は「勇気」につながるものですが、抜群の誇らしげな勇気ではなく、〝ほどほどの〟〝ある程度の〟といった表現になります。自分には「見えていないことが多い」状況で「彼らにはこう見える」と発言するからです。こうして②の「それなりの」を採用します。
空欄[H]は直後の「一定したパターン」「規則性」の対比表現です。したがって「漠然とした」と決まります。空欄[I]は「星の数」という数量の多さを表す言葉とセットです。①の「おびただしい」と決まりますね。程度がはなはだしいことを示すときにも使います。

問２《語句言い換え・選択肢》

「ないがしろ」は本来大事なものを軽んじることで漢字では「蔑ろ」です。本文直後の「覆い隠されてしまう危険」と同様に大切なものの価値を見えなくしてしまうことです。したがって、②「軽視する」が正解です。他の「異化（特別扱いという意味だよ）」「再評価」「重視」「認識」などは、すべてプラスの価値を評価しうる方ですから間違い。「往々にして」は、ときどきあるいはよくあることを指します。本文だと直後に「多い」という表現があります。こういうわけで①「しばしば」が正解です。

問３《キーワードに関する語句抜き出し》

「文化人類学者（筆者以外のということになります）」の「相対主義」（世界にはそれぞれ、いろいろな考え方があるんだよといった感じの外部からの目です）では、「覆い隠されてしまう」大事なものとはなにか。それはその文化圏内に生きている人たちの固有性、唯一絶対のものの見方です。本文の言葉では「彼らの世界の絶対性」です。「覆い隠されてしまう」と「ないがしろにしている」という周辺語句の類似にも注目ください。「彼ら」という指示語が不適切ではないかと一瞬思いますが、本文中のど

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

こかを指しているのではなく「現地の人たち」という意味を込めて使われていますのでＯＫです。

問４《キーワードに関する語句抜き出し》

設問文の「何が必要なのか」が手がかりになります。まさに筆者自身が求めて止まないものとはなにか。終わりから二段落目の「新しい言葉をみつけなくてはならない」の「なくてはならない」が決定的なヒントで、「新しい言葉」と決まります。

問５《全文理解にもとづく正誤問題》

①はあきれかえってでんぐり返りそうな間違いですね（試験中にでんぐり返しなどすると椅子にすわって解答しなさいと試験監督からたしなめられると思いますが）。筆者が研究対象にしているソロモン諸島の文化圏の人たちはどのようにこの世界を見ているのか、この世界は「どう見えているのか」は、たとえばサザエの収穫高などで検証可能なものです。それは「美や超自然的な事象に比べ」ある程度客観的に（モノのレベルで）調査できるということです。これも小さいながら対比混乱の誤りと言えます。しかも×と判断出来たら得点になる。いい問題ですね。②は○です。筆者の文化研究において「見える」「見えない」は大キーワードです。③は×です。岩礁が「どう見えているのか」が大事で、これはある文化圏で育つことで養われるものです。決して「熱心」「集中力」「視力」の問題ではありません。対比混乱の誤りと言えます。④は×です。「見える」は「単に獲物に対する視覚的な能力」ではありません。ある個人的資質ではなく、むしろある文化圏内にいるとどんなふうに世界が「見える」眼になるのかが大事です。筆者も現地での生活をつづけ、同じ経験を重ねるうちに「できないことができるようになる喜び」を感じています。〝相手文化の眼〟を「獲得」できるのです。記述に反する誤りです。このことは勉強や学習にも通じる話だね。例えば、英文が単なる暗号や記号のつらなりではなく意味のある文章として「見える」ようになるのも、ヒアリングで呪文ではなく意味のある発話として「聞こえる」ようになるのも、学習という文化的訓練によるのです。現代文だっていっしょだよ。ただの黒い活字一色の文面だったものが、筆者のメインメッセージと比較・敵役メッセージとの対比で文章が「読める」のは、もって生まれた各個人の能力というよりも、文化的な訓練です。つまりこの授業を通じて、正解も「見える」ようになるのです。⑤は○です。「美や超自然的な事象」とサザエを比べていましたよね。⑥は×です。「わかる人にはわかるといった言説」は筆者の

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

側、「複数の相対的な価値の存在を認めること」は、他の「文化人類学者」の側、つまり敵役側の言葉です。混ぜてはいけません。〝混ぜるな危険〟は、洗剤だけの話ではありませんね。そうです、対比混乱の誤りです。現代文も「わかる人にはわかる」のです。オカルトではありません。魔法学校の話でもありません。人間の血が混じっていると優れた魔法使いになれないというような話ではありません。現代文は、この授業で展開されているような方法的訓練で「わかる」ようになります。これは筆者が言うように「まさに世界を獲得していく作業」で、この「喜びはなにものにもかえがたい」ものです。みなさんが「わかる人」になれるよう、私も奮闘してまいりますので、よろしく。

模範解答

問１　A＝③　B＝⑤　E＝②　H＝④　I＝①　問２　C＝②　F＝①　問３　彼らの世界の絶対性

問４　新しい言葉　問５　①＝×　②＝○　③＝×　④＝×　⑤＝○　⑥＝×

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　解答　第二講

（ア）③　（イ）⑤　（ウ）①　（エ）①　（オ）④

（カ）③　（キ）①　（ク）①　（ケ）③　（コ）②

解答漢字一覧

（ア）間隔　（イ）採集　（ウ）収穫　（エ）構築　（オ）覚悟

（カ）示唆　（キ）記録　（ク）検証　（ケ）規則性　（コ）拒絶

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。